

人文学部プロジェクト活動報告

人文学部は、以下のプロジェクトに戦略的経費（研究プロジェクト助成）を配分しています（右は代表者名）。

刊行物助成

英語と英米文学

独仏文学

山口地域社会研究

山口大学哲学研究会

岩部浩三

Michel de Boissieu

速水聖子

藤川 哲

『英語と英米文学』

本誌は山口大学の英語関係教員による紀要であり、半世紀にわたって年1回発刊されている。

現在は掲載された論文等が山口大学YUNOCAによってWEBで検索閲覧できるようになり、内容が完全に埋もれてしまうという心配も少ない。実際、インターネットが発達する前から『英語と英米文学』も含めて紀要論文は十分に活用されていたのである。例えば、英語学分野では『英語学論説資料』（論説資料保存会刊）が全国の紀要論文から英語学関係のものを抜粋して冊子にまとめている。私が2年前に『英語と英米文学』に掲載した論文が今年号に収録されている。こちらも年1回で今年度は48号であるから、『英語と英米文学』の歴史とほぼ重なっている。

学部段階の卒業論文では、この『英語学論説資料』を見ながらテーマを探すのが一つの方法である。現在、人文学部の英語学分野では「卒業研究」という形で、始めから英語で書かれた最新の論文を読むことを重要なプロセスに位置づけているが、改組後の新カリキュラムではこれが「卒業論文」に変わる。その際、日本語で

書かれた論文をスタートラインで取り入れることを検討せざるを得ない。そのためには日本語で書かれた相当量の資源が必要であり、その一部を担うものとして『英語と英米文学』を教育的な視点から再評価することになるであろう。

『英語と英米文学』51号は2016年12月に上梓され、その内容は以下の通りである。また、本号は国際総合科学部福屋利信教授の退職記念号となっている。

1. Edwards, Nathaniel (国際総合科学部准授)
“The Long and Winding Road of a World-Class Champion” (福屋先生献辞)
2. 岩部浩三 (人文学部教授)
「総称文の多様性と認知能力の複合性--社会的偏見の克服に向けて--」
3. 藤村香代 (経済学部准教授)
“A Survey of Japanese Compliments and Compliment Responses among Undergraduates with Specific Focus on Gender”
4. 池園 宏 (人文学部教授)
「喪失の諸変奏--A Pale View of Hills--」
5. 福屋利信 (国際総合科学部教授)
「ビートルズ：その誕生から解散まで、すべては必然であった」

6. 宮原一成（人文学部教授）

『あるときの物語』における純粹贈与志向
(岩部浩三)

『独仏文学』

山口大学『独仏文学』は、山口大学独仏文学研究会が一回刊行している学術誌で、今年度で第38号となる。山口大学独仏文学研究会は、ドイツ語学・文学あるいはフランス語学・文学を研究領域としている教員の内の希望者を正会員とし、その他、元正会員だったものの内の希望者を名誉会員、更に、ドイツ語・ドイツ語学・ドイツ文学あるいはフランス語・フランス語学・フランス文学の非常勤講師の内の希望者を準会員としている。第38号の掲載論文は、次の3本である。

Hilfe für verfolgte jüdische Kinder in Frankreich von 1938 bis 1944.
Mit der Vorstellung des Zeitzeugenberichts von Paul Niedermann
(Felicitas Dobra)

イヴァン・フランコの学校をめぐる短編群
『鉛筆』(1879) その他
(小粥良)

La Vie de Beethoven (1903) de Romain Rolland
(Michel de Boissieu)

執筆者3名とも正会員で、内、Michel de Boissieuは人文学部所属である。

(Michel de Boissieu)

山口地域社会研究

「山口地域社会研究」プロジェクトは山口地域社会学会の研究活動を中心として成り立っている。

2016年は、第40回例会3月5日(土)・第41回例会7月9日(土)・第42回11月12日(土)の計3回の研究例会を開催した。研究例会は、会員によるそれぞれの研究発表を毎回2～3本ずつ報告する形で行われ、活発な意見交換がなされている。昨年に引き続き、山口県内をはじめとする社会学・民俗学・文化人類学研究者の新規入会も微増している。

今年度の特筆すべき点として、第42回の研究例会を日本村落研究学会九州地区との合同研究会として開催したことをご報告しておきたい。村落研究学会より福本純子氏(熊本大学大学院)にご発表いただくとともに、特別セッションとして本学人文学部・大学院人文科学研究科卒業の阿部典子氏(NPO法人みんなの集落研究所)に農山村の地域づくり支援についての現場レポートをご報告いただき、合同研究会としてとても実りある討論の場となった。今後もこのような機会を通じて、研究例会の活性化を図るとともに、他の学会・研究組織とのネットワーク作りにも寄与することを期待したい。

なお、今年度の研究例会の成果を踏まえて、年度末に学術雑誌『やまぐち地域社会研究』(第14号)を刊行する予定であり、現在、編集作業を進めているところである。また、第14号は2016年年度末でご退職される坪郷英彦先生の退職記念号として刊行される予定である。

(速水聖子)

山口大学哲学研究会

山口大学哲学研究会は、山口大学に所属する哲学・思想系の教員を中心とする組織で、会誌の発行、合評会、研究発表会などの活動を行っ

ています。

現在、正会員（学内の常勤教員である会員）は13名で、そのうち、人文学部の教員は、ジュマリ・アラム、柏木寧子、栗原剛、藤川哲、村上龍、横田蔵人、脇條靖弘の7名です。他学部の会員は、岡村康夫（教育学部）、佐野之人（同）、村上林造（同）、山本勝也（経済学部）、小川仁志（国際総合科学部）、青山拓央（時間学研究所）の6名です。また、名誉会員（過去に山口大学に所属したことのある、学外の会員）は19名で、そのうち、人文学部の元教員は、上野修、遠藤徹、奥津聖、加藤和哉、木村武史、周藤多紀、武宮諦、田中均、外山紀久子、林文孝、古荘真敬、頼住光子の12名です。

2016年度は、9月24・25日、山口県立図書館と西田幾多郎旧宅で開催された「西田幾多郎に会う」（講演会、見学会）を、石川県西田幾多郎記念哲学館（かほく市）、山口西田読書会とともに主催しました。また例年通り、会誌『山口大学哲学研究』の第24巻を発行します（2017年3月）。栗原剛、村上龍、藤川哲、佐野之人、小川仁志の5名が論文等を執筆しています。人文学部より支給された「刊行物助成経費」を、印刷・製本費用の一部に充てさせて頂きました。

なお、本年度は、藤川哲、小川仁志の2名が運営委員を担当しました。

（藤川哲）